

## 令和6年度練馬区立旭町小学校 学校評価報告書

練馬区立旭町小学校  
校長 清水 誠

### 1 自己評価結果

#### (1) 概要（成果・課題及び改善策）

##### 【児童アンケート結果および保護者アンケート結果】

#### ① 学校についての内容（学習指導）

- ・「学校は授業を工夫し、わかりやすく指導している。」の項目では、児童の97.1%が肯定的な回答だったが、8.7%の保護者の方が「わからない」との回答（昨年比+4ポイント）であった。日頃の授業の様子を今後もホームページ等で強力に発信していくとともに、より分かりやすい授業を実施していく。
- ・「道徳教育を通じて、いじめの指導や心の教育に努めている。」の項目では、「分からない」と答えた保護者が13%であった。校内研究で取り組んでいるにもかかわらず、その成果や課題が伝わっていない可能性がある。来年度は、道徳についての取組を学校だよりや学年だより、学校ホームページやS i g f y等で積極的に発信していく。

#### ② 学校についての内容（教職員の対応）

- ・子どもの悩みについては、教員、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員等が連携を図りながら継続して対応していく。
- ・お便りやホームページ等については、肯定的な回答をした保護者の割合が97.2%であった。今後もホームページやお便りを通じて、子供たちの様子を伝えていく。
- ・保護者や地域の方々との活動については、来年度より、PTAから「児童応援ボランティアあさひっこ友の会」に組織変更することとなった。ボランティア活動への参加を学校からも呼び掛けていく。
- ・施設設備等については、引き続き安全点検を定期的に行っていく。

#### ③ 児童についての内容（学習指導）

- ・主体的な読書については、肯定的な回答をした保護者の割合が、昨年度比で5ポイントマイナスだった。今後はさらに意欲的に読書に取り組めるような活動を工夫していく。
- ・学習理解・家庭学習については、昨年度と比較しどの項目も横ばいであった。今後も、基礎基本がより身に付くように、東京ベーシックドリルやタブレット端末から使用できるドリルパークの活用を推進していく。

#### ④ 児童についての内容（あいさつ運動等）

- ・あいさつについては、肯定的な回答をした保護者と児童の差が8ポイントだった。（昨年度比+3ポイント）今後は、学校だけでなく、家庭や地域においても主体的にあいさつができるように継続的に指導していく。
- ・外遊びや運動については、約8割の保護者と児童が肯定的な回答をしている。今後は、体育の授業を通して運動の楽しさを味わわせるとともに、体力向上につながる体育的行事をさらに工夫していく。

#### ⑤ 児童についての内容（家庭での会話）

- ・家庭での会話については、約8割の保護者、児童ともに肯定的な回答であり、昨年

度と比較しても変わりはない。

いじめや生命に関わること等についてのSOSは、必ず大人に伝えるように指導をしている。

- ・SNSルールについては、保護者と児童の肯定的な回答の差が31ポイントもあり、児童においては54%と低い状況であった。児童の意識を高く保つために家庭での話し合いを強く促していく。

#### ⑥ 児童についての内容（学校生活）

- ・学校生活の楽しさについての質問では、9割以上の保護者と児童が肯定的な回答だった。今後も学習、生活、行事等の教育活動全体を通して教育目標の実現を図り、児童が健やかに伸び伸びと成長していけるように、そして、どの児童にとっても安心して楽しく過ごせるように、教育活動に尽力していく。

#### 【教職員による自己評価結果】

返事や挨拶などの規範意識、ペーパーレス化の推進、タブレットの活用、教職員の負担軽減（働き方改革）等が課題として挙げられた。規範意識の醸成のためには、日頃からルールを守ることのよさや気持ちよさを感じさせていく。タブレットの活用においてはICT教育推進担当教員を中心に教員のニーズに応じた研修を計画的に実施し、効果的な活用を図っていく。教職員の校務負担軽減では、起案文書や教育計画のデジタル化をしたり、担任の学校徴収金業務の一部を事務職員と分担したりしてきた。今後も、子供と向き合う時間の確保のため、各行事の実施の仕方や適切な時数の管理を行っていく。

#### 【小中一貫教育および幼保小連携】

6年生の部活動体験、中学校の授業体験、あいさつ運動等の活動を豊溪中学校と行った。小1プロブレムを改善し円滑な接続ができるように、今年度は旭幼稚園、旭町保育園、旭町第二保育園、さくらさくみらい旭町保育園および田柄保育園とそれぞれ2回ずつの交流会を実施し、園児との交流を図ってきた。また、旭町保育園の保護者会に校長が参加し、小学校生活に備えての話をしたり、質問に答えたりするなど、保護者の不安の解消に努めた。

#### 【いじめ問題】

学校いじめ防止基本方針に基づいて、毎週金曜日に生活指導夕会を行うとともに適宜校内委員会やケース会議を開き、いじめの早期発見、早期解決に向けた組織的な取り組みを行ってきた。今後は、校内いじめ対策委員会の役割を明確にするとともに、いじめ防止基本方針について全教職員に周知徹底していく。また、引き続き、いじめと判断されるような事案については、担任や学年だけに対応を任せず、校内委員会やスクールカウンセラー等も活用しながら解決を図り、保護者との連絡を密に行い、信頼関係を築きながら協力体制で解決に臨んでいく。

#### (2) 根拠資料

- ・児童アンケート

12月に実施。重点目標への取り組みや教員の授業の振り返りができるよう項目を設定している。

- ・保護者アンケート

12月に実施。学校経営計画を意識した項目を設定している。

## 2 学校関係者評価

### (1) 総括

#### ① 成果

- ・地域や関連機関の方に改めて学校経営方針と本校の実態について理解をいただくことができた。
- ・教育活動に外部の目が入ることで客観的な視点を意識することに繋がった。

## ②話題となった課題

### <学習指導について>

- ・ICT機器を使って指導している教員が多く、タブレットの活用が進んでいると感じた。
- ・授業を参観したが、児童が活発に意見を発言していたり、静かにノートを書いていたりと、落ち着いた様子が分かった。

### <特別活動について>

- ・ひろばでも、上級生が下級生のお世話を積極的に行っている。学校のたてわり班活動の成果ではないかと思う。

### <その他>

- ・SNSルールについての児童と保護者の意識の差が気になった。家庭でのルール作りができるように、これからも働きかけてほしい。
- ・PTAが「児童応援ボランティアあさひっこ友の会」に変更すると聞いた。近隣の小学校では、ボランティアが集まらなくて行事が開催できないこともあったと聞いている。子供たちのためにも、地域にできることがあれば協力したい。

## ③改善策

- ・中学進学時のSNSトラブルが多いとのこと。卒業前の3月に、具体的な事例をもとに情報モラルについて改めて指導するとともに、家庭への啓発を行う。
- ・今まで以上に「あさひっこ友の会」と連携を図りながら、保護者の協力を得る努力をする。また、青少年育成第六地区委員会とも情報を共有していく。

## (2) 根拠資料

学校だより（記録）

## 3 評価結果の公表等

- ・学校だより「きらめく風」及びホームページを活用して評価結果を公表する。
- ・学校評価結果一覧などについてはc4thに掲示する等、教職員と学校評議員で共有を図っている。

## 4 次年度の学校改善へ向けた校長の見解

- ・学校教育目標の「心ゆたかな子ども」の具現化を図るため、道徳教育全体計画、学校行事年間指導計画、特別支援教育全体計画等を見直し、体験的な活動を取り入れ、児童一人一人の豊かな人間性や道徳性を伸ばしていく。
- ・個別最適な学び、協働的な学びの授業を充実させるため、タブレットの効果的な活用を図る。タブレットを活用した具体的な活用事例を共有できるように、OJT研修として実施する。
- ・学校・家庭・地域の三者が連携して児童の指導にあたる。幼保小連携・小中一貫教育を推進し、教育内容や教育方法などの連続性・系統性を高めていく。また、学校公開や学校評議員会等を通して教育活動や学校の取組などを積極的に公開する。
- ・道徳教育の更なる充実を図り、教育活動全体を通して互いを尊重し、共生する能力の育成に努めることでいじめの防止にもつなげる。また、生活指導においては、他者との心の交流の表れである挨拶について指導し、児童が気持ちよく過ごせる学校風土を醸成していく。